

都道府県別地域特認取組の効果測定調査結果

別添

都道府県	取組の内容	対象作物	調査する効果	調査結果				
				地球温暖化防止		生物多様性保全		備考
				調査方法	結果 (tCO2/ha/年)	調査方法	結果	
北海道	フェロモントラップと耕種の防除を組み合わせた害虫防除技術	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実:A (4) 対:B (2)	
	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	見える化サイト	0.14			
	草生栽培	果樹	地球温暖化防止	見える化サイト	1.41			
	冬期湛水管理	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実:A (6) 対:B (2)	
青森県	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた交信攪乱剤による主要害虫防除	りんご、なし	生物多様性保全			マニュアル・畑	実:B (2) 対:C (0)	
	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	見える化サイト	1.28			
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた畦畔除草及び秋耕の実施	水稻	生物多様性保全、 地球温暖化防止	計算式	7.40	マニュアル・水稻	実:B (3) 対:B (2)	H31年度再調査
岩手県	夏期の水田内ビオトープ(生き物緩衝地帯)の設置	水稻	生物多様性保全			-	-	取組実態がないため未調査
	メダカ等魚類を保護する管理	水稻	生物多様性保全			メダカの採捕調査の実施	別紙 ⑦	
	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	見える化サイト	0.64			
	草生栽培	果樹	地球温暖化防止	-	-			取組実態がないため未調査
	冬期湛水管理	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実:A (5) 対:A (5)	
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた畦畔除草及び秋耕の実施	水稻	生物多様性保全、 地球温暖化防止	計算式	7.40	マニュアル・水稻	実:A (6) 対:A (6)	
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた畦畔除草及び長期中干し	水稻	生物多様性保全、 地球温暖化防止	計算式	5.42	マニュアル・水稻	実:A (5) 対:B (2)	
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた交信攪乱剤による害虫防除	りんご	生物多様性保全			マニュアル・畑	実:A (6) 対:A (6)	
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせたほ場周辺除草	アスパラガス	生物多様性保全			-	-	取組実態がないため未調査
宮城県	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	見える化サイト	1.09			
	草生栽培	果樹	地球温暖化防止	-	-			取組実態がないため未調査
	冬期湛水管理	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実:S (9) 対:A (7)	
秋田県	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	-	-			取組実態がないため未調査
	草生栽培	果樹	地球温暖化防止	-	-			取組実態がないため未調査
	冬期湛水管理	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実:A (6) 対:B (3)	
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた畦畔除草及び秋耕の実施	水稻	生物多様性保全、 地球温暖化防止	計算式	7.40	マニュアル・水稻	実:A (6) 対:B (3)	
山形県	簡易ビオトープの設置	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実:B (4) 対:B (4)	
	夏期湛水管理	麦類(大麦、小麦)、なたね	生物多様性保全			鳥類の種類や個体数の確認及びマニュアルを用いた水生コンチュウ類等の調査を実施	別紙 ⑤	
	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	見える化サイト	8.54			
	草生栽培	果樹	地球温暖化防止	-	-			取組実態がないため未調査
	冬期湛水管理	全作物	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実:A (5) 対:B (4)	
	総合的病害虫防除・雑草管理(IPM)と組み合わせた畦畔除草及び秋耕の実施	水稻	生物多様性保全、 地球温暖化防止	計算式	7.40	マニュアル・水稻	実:B (4) 対:A (5)	
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた交信攪乱剤による害虫防除	りんご、西洋なし、日本なし、もも、すもも、かき、トマト	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実:B (3) 対:C (1)	H31年度再調査
	炭の投入	全作物	地球温暖化防止	計算式	0.24			
福島県	冬期湛水管理	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実:A (6) 対:A (5)	
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた交信攪乱剤による害虫防除	りんご、もも、なし	生物多様性保全			マニュアル・畑	実:B (5)	H31年度再調査
	総合的病害虫防除・雑草管理(IPM)と組み合わせた畦畔除草及び秋耕の実施	水稻	生物多様性保全、 地球温暖化防止	計算式	7.40	マニュアル・水稻	実:A (7) 対:A (6)	
茨城県	フェロモン剤の導入と天敵昆虫の導入	ピーマン(施設に限る)	生物多様性保全			-	-	取組実態がないため未調査
	草生栽培	果樹	地球温暖化防止	-	-			取組実態がないため未調査
	冬期湛水管理	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実:A (5) 対:B (4)	
栃木県	草生栽培	果樹・茶	地球温暖化防止	-	-			取組実態がないため未調査
	冬期湛水管理	全作物	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実:A (6) 対:C (1)	

都道府県	取組の内容	対象作物	調査する効果	調査結果				
				地球温暖化防止		生物多様性保全		備考
				調査方法	結果 (tCO2/ha/年)	調査方法	結果	
群馬県	冬期湛水管理	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(7) 対：A(6)	
埼玉県	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	見える化サイト	0.34			
	草生栽培	果樹・茶	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	冬期湛水管理	水稻	生物多様性保全			－	－	取組実態がないため未調査
千葉県	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	草生栽培	果樹・茶	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	冬期湛水管理	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(6) 対：B(2)	
	江の設置	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(6) 対：B(3)	
東京都	バンカープランツの植栽	なす	生物多様性保全			－	－	取組実態がないため未調査
神奈川県	総合的病害虫・雑草管理 (IPM)	施設野菜(促成・半促成トマト、半促成きゅうり、いちご)	生物多様性保全			－	－	取組実態がないため未調査
	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	見える化サイト	0.39			
	草生栽培	果樹・茶	地球温暖化防止	－	－			30年度から取組開始。 31年度調査予定
	冬期湛水管理	水稻	生物多様性保全			－	－	取組実態がないため未調査
山梨県	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	草生栽培	果樹	地球温暖化防止	見える化サイト	1.83			
	冬期湛水管理	全作物	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：B(2) 対：C(1)	
長野県	総合的病害虫・雑草管理 (IPM) と組み合わせた 交信攪乱剤による害虫防除	りんご、もも、なし、キャベツ、レタス	生物多様性保全			マニュアル・畑	実：A(5),A(4) 対：B(3)	
	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	草生栽培	果樹	地球温暖化防止	見える化サイト	0.18			
	冬期湛水管理	全作物	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(5) 対：B(4)	
	インセクタリープランツの植栽	なす、きゅうり、トマト	生物多様性保全			－	－	取組実態がないため未調査
静岡県	敷草用半自然草地の育成管理	茶	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	総合的病害虫・雑草管理 (IPM) と組み合わせた 交信攪乱剤の導入	茶	生物多様性保全			－	－	取組実態がないため未調査
	草生栽培	果樹	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	総合的病害虫・雑草管理 (IPM) の実践	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(4) 対：C(1)	
新潟県	江の設置	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A (5) 対：B (3)	
	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	草生栽培	果樹・茶	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	冬期湛水管理	全作物	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(5) 対：B(3)	
	炭の投入	全作物	地球温暖化防止	計算式	0.44			
富山県	冬期湛水管理	全作物	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A (4) 対：A (5)	
	総合的病害虫・雑草管理 (IPM) と組み合わせた 畦畔除草及び秋耕の実施	水稻	生物多様性保全、 地球温暖化防止	計算式	5.49	マニュアル・水稻	実：B(2) 対：B(2)	H31年度再調査
	夏期の水田内ビオトープ(生き物緩衝地帯)の設置	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：S(7) 対：A(4)	
石川県	江の設置	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A (5) 対：A (5)	
	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	見える化サイト	0.58			
	冬期湛水管理	全作物	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(5) 対：A(4)	
	総合的病害虫・雑草管理 (IPM) と組み合わせた 畦畔の機械除草及び長期中干し	水稻	生物多様性保全、 地球温暖化防止	計算式	4.02	マニュアル・水稻	実：A(4) 対：A(4)	
	総合的病害虫・雑草管理 (IPM) と組み合わせた 交信攪乱剤による害虫防除	なし	生物多様性保全			黄色粘着トラップにより簡易な生き物調査を実施		指標生物の捕獲数が少なく効果が判然としない。31年度再調査も含め今後検討。

都道府県	取組の内容	対象作物	調査する効果	調査結果				
				地球温暖化防止		生物多様性保全		備考
				調査方法	結果 (tCO2/ha/年)	調査方法	結果	
福井県	生き物緩衝地帯の設置	水稲	生物多様性保全			マニュアル・水稲	実：A (5) 対：A (5)	
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた魚毒性の低い除草剤1回施用＋畦畔機械除草3回以上	水稲	生物多様性保全			マニュアル・水稲	実：A(5) 対：C(1)	
	中干延期	水稲	生物多様性保全			マニュアル・水稲	実：A(5) 対：B(2)	
	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	冬期湛水管理	全作物	生物多様性保全			マニュアル・水稲	実：A (4) 対：A (4)	
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた畦畔除草及び秋耕の実施	水稲	生物多様性保全、地球温暖化防止	計算式	5.49	マニュアル・水稲	実：A (4) 対：C (1)	
岐阜県	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	草生栽培	果樹・茶	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	冬期湛水管理	水稲	生物多様性保全			－	－	取組実態がないため未調査
愛知県	草生栽培	果樹・茶	地球温暖化防止	見える化サイト	2.56			
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)の実践	水稲	生物多様性保全			マニュアル・水稲	実：B(3) 対：A(4)	H30年度の取組実態なし
三重県	総合的病害虫・雑草管理(IPM)技術の実践	大豆、なし、かき、かんきつ、キャベツ、なばな、いちご、茶	生物多様性保全			黄色粘着トラップにより簡易な生き物調査を実施	別紙 ①	
滋賀県	炭の投入	全作物	地球温暖化防止	計算式	0.54			
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた畦畔の人手除草及び長期中干し	水稲	生物多様性保全、地球温暖化防止	計算式	2.18	マニュアル・水稲	実：S(8) 対：C(1)	
	希少魚種等保全水田の設置	水稲	生物多様性保全			ニゴロブナ等の採捕調査の実施	別紙 ⑧	
	バンカープランツの植栽	なす、トマト(ミニトマトを含む)、とうがらし類(ピーマンを含む)、うり類、いちご	生物多様性保全			マニュアル・畑	別紙 ②	
	在来草種の草生による天敵利用	果樹	生物多様性保全			黄色粘着トラップにより簡易な生き物調査を実施	別紙 ③	
	水田の生態系に配慮した雑草管理	水稲	生物多様性保全			マニュアル・水稲	実：S(8),A(6) 対：B(3),B(2)	
	水田ビオトープ	水稲	生物多様性保全			マニュアル・水稲	実：A(5) 対：A(5)	
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)の実践	大豆、露地野菜、小豆、施設野菜、果樹、茶	生物多様性保全			－	－	H30年度調査予定(対象作物：キャベツ、調査時期10～11月)
	リビングマルチ	全作物	地球温暖化防止	見える化サイト	2.24			
	草生栽培	果樹・茶	地球温暖化防止	見える化サイト	1.36			
	冬期湛水管理	水田で栽培する作物	生物多様性保全			マニュアル・水稲	実：A(5) 対：B(4)	
	緩効性肥料の利用及び長期中干し	水稲	地球温暖化防止	計算式	緩効性肥料 0.02 長期中干し 2.18			
	緩効性肥料の利用及び省耕起	大豆・露地野菜	地球温暖化防止	計算式	緩効性肥料 0.31 省耕起 1.00			
	緩効性肥料の利用及び深耕	茶	地球温暖化防止	計算式	緩効性肥料 0.72 深耕 非評価			
京都府	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	草生栽培	果樹・茶	地球温暖化防止	見える化サイト	0.81			
	冬期湛水管理	水稲、大豆、小豆	生物多様性保全			マニュアル・水稲	実：A(6) 対：A(6)	
	バンカープランツの植栽	なす、トマト(ミニトマトを含む)、とうがらし類(ピーマンを含む)、うり類	生物多様性保全			－	－	取組実態がないため未調査
	炭の投入	全作物	地球温暖化防止	計算式	1.98			
	緩効性肥料の利用及び長期中干し	水稲	地球温暖化防止	計算式	緩効性肥料 0.01 長期中干し 2.18			

都道府県	取組の内容	対象作物	調査する効果	調査結果				
				地球温暖化防止		生物多様性保全		備考
				調査方法	結果 (tCO2/ha/年)	調査方法	結果	
兵庫県	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	見える化サイト	1.39			
	草生栽培	果樹・茶	地球温暖化防止	見える化サイト	1.64			
	冬期湛水管理	全作物	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：S(8) 対：A(5)	
	中干延期	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(6) 対：A(7)	
	黄(緑)色蛍光灯の利用による化学合成農薬低減技術の導入	トマト(施設)	生物多様性保全			－	－	取組実態がないため未調査
	紫外光照射による化学合成農薬低減技術の導入	いちご(施設)	生物多様性保全			－	－	取組実態がないため未調査
奈良県	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた交信攪乱剤の導入	なし、かき	生物多様性保全			マニュアル・畑	実：A(2) 対：A(2)	
	インセクトリープラント(バンカープランツ)の導入	なす(露地栽培)	生物多様性保全			－	－	取組実態がないため未調査
	草生栽培	果樹・茶	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
和歌山県	性フェロモン剤の導入	うめ、かき、もも	生物多様性保全			黄色粘着トラップにより簡易な生き物調査を実施	別紙④	
	草生栽培	果樹	地球温暖化防止	見える化サイト	1.39			
鳥取県	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	草生栽培	果樹	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	冬期湛水管理	全作物	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(5) 対：B(2)	
島根県	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた除草剤代替技術(本田の機械除草)による雑草対策	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：S(7) 対：S(7)	
	リビングマルチ	全作物	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	冬期湛水管理	全作物	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(4) 対：A(5)	
岡山県	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	草生栽培	果樹	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	夏期の水田内ビオトープの設置	水稻	生物多様性保全			－	－	取組実態がないため未調査
山口県	草生栽培	果樹	地球温暖化防止	見える化サイト	0.72			
	冬期湛水管理	全作物	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：S(7) 対：B(3)	
徳島県	草生栽培	果樹	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	冬期湛水管理	水稻、れんこん	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(5) 対：B(3)	
香川県	草生栽培	果樹	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
愛媛県	草生栽培	かんきつ類	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	冬期湛水管理	水稻	生物多様性保全			－	－	取組実態がないため未調査
高知県	土着天敵の温存利用技術	野菜類(H28まで施設のみ)	生物多様性保全			マニュアル・畑	実：A(3)	
	冬期湛水管理	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：S(7) 対：A(4)	
	インセクトリープランツの植栽	オクラ	生物多様性保全			黄色粘着トラップにより簡易な生き物調査を実施		H30年度調査予定(豪雨により調査延期：7月下～8月下→8月下～9月下)
福岡県	省耕起播種技術の導入	大豆、麦、なたね(搾油用)	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)技術の導入	水稻、いちご、きゅうり(施設)、ねぎ(施設)、なす(施設)	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(6) 対：C(1)	
	草生栽培	果樹・茶	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた畦畔の機械除草及びアイガモ使用による本田雑草対策	水稻	生物多様性保全			－	－	取組実態がないため未調査
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた除草剤代替技術(本田の機械除草)による雑草対策	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(5) 対：C(1)	
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた魚毒性の低い除草剤1回施用＋畦畔機械除草4回以上	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(6) 対：C(1)	
佐賀県	大豆の不耕起播種	全作物	地球温暖化防止	計算式	1.00			
	リビングマルチ	全作物	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	草生栽培	全作物	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	冬期湛水管理	全作物	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(7),A(7) 対：B(2),B(2)	
	総合的病害虫・雑草管理(IPM)の実践	水稻、大豆、たまねぎ、いちご、みかん、茶	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(5) 対：B(3)	

都道府県	取組の内容	対象作物	調査する効果	調査結果				
				地球温暖化防止		生物多様性保全		備考
				調査方法	結果 (tCO2/ha/年)	調査方法	結果	
長崎県	総合的病害虫・雑草管理 (IPM)	水稻、麦類、大豆、果樹、露地野菜、施設野菜、茶	生物多様性保全			マニュアル・水稻	S(8),A(6),A(6) B(2),A(5),B(4)	
	リビングマルチ	全作物	地球温暖化防止	見える化サイト	△ 0.73			取組ほ場における堆肥施用なし
	草生栽培	果樹	地球温暖化防止	見える化サイト	0.62			
	敷草用半自然草地の育成管理	茶	地球温暖化防止	見える化サイト	1.72			
熊本県	夏期の湛水管理	野菜類	生物多様性保全			鳥類の種類や個体数の確認及びマニュアルを用いた水生コンチュウ類等の調査を実施	別紙 ⑥	
	リビングマルチ	全作物	地球温暖化防止	見える化サイト	0.23			
	草生栽培	果樹・茶	地球温暖化防止	見える化サイト	0.14			
	冬期湛水管理	全作物	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(5) 対：A(6)	
	総合的病害虫・雑草管理 (IPM) の実践	水稻、大豆、キャベツ、ブロッコリー、茎ブロッコリー、ハクサイ、カリフラワー、なす、温州みかん、なし、茶	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(5) 対：B(4)	
大分県	冬期湛水管理	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：S(9) 対：B(4)	
	緩効性肥料の利用及び長期中干し	水稻	地球温暖化防止	計算式	緩効性肥料 0.00 長期中干し 2.21			
宮崎県	リビングマルチ	畑作物	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	草生栽培	果樹・茶	地球温暖化防止	－	－			取組実態がないため未調査
	冬期湛水管理	水稻	生物多様性保全			マニュアル・水稻	実：A(5) 対：C(0)	
	総合的病害虫・雑草管理 (IPM) の実践	施設園芸品目(きゅうり、ピーマン、トマト(ミニトマトを含む))	生物多様性保全			－	－	取組実態がないため未調査
	バンカープランツの植栽	なす、きゅうり、ピーマン、オクラ	生物多様性保全			－	－	取組実態がないため未調査
鹿児島県	リビングマルチ	全作物	地球温暖化防止	見える化サイト	0.87			
	草生栽培	果樹・茶	地球温暖化防止	見える化サイト	2.24			

① 三重県・IPM（梨）黄色粘着トラップ

種類	実施区	対照区
テントウムシ類	2.16	1.29
ヒメハナカメムシ類	2.50	2.51
ヒラタアブ類	0.95	1.38
クモ類	0.67	0.48
ハネカクシ類	1.46	1.15
クサカゲロウ類	0.71	0.30

※ 4 回実施した調査の平均値を記載

② 滋賀県・バンカープランツ（トマト）

種類	調査方法	実施区	対照区
クモ類	見取り	1	0
寄生蜂類	黄色粘着トラップ	38	18
捕食性カメムシ類	見取り	0.3	0
捕食性カメムシ類	黄色粘着トラップ	0	0

※カメムシ(見取り)は3回実施した調査の平均値(その他は調査1回)

③ 滋賀県・在来草種の草生による天敵利用（ぶどう）黄色粘着トラップ

種類	実施区	対照区
テントウムシ類	3.00	1.33
ヒメハナカメムシ類	0.00	0.00
ヒラタアブ類	1.00	0.33
クモ類	6.67	4.33
ハネカクシ類	2.00	0.67
クサカゲロウ類	0.00	0.00

※ 4 回実施した調査の平均値を記載

④ 和歌山県・性フェロモン剤の導入（IPM）
（梅）黄色粘着トラップ

種類	実施区	対照区
テントウムシ類	0.40	0.13
ヒメハナカメムシ類	0.11	0
ヒラタアブ類	0.02	0
クモ類	0.09	0.19

※ 4 回実施した調査の平均値を記載

⑤ 山形県・夏期湛水管理



取組ほ場に飛来したセイタカシギ

＜調査方法と結果＞

実施区と対照区で鳥類の調査を実施して種数や個体数を比較。
また、実施区において調査マニュアルを活用して水生コウチュウ類の調査を実施。

鳥類の調査結果

（2 回の調査結果の計）

	実施区	対照区
アオサギ類	3	0
カモ類	63	0

水生コウチュウ類の調査結果

	実施区
1 回目	76
2 回目	39
計	115

スコア：2
評価：S

⑥ 熊本県・夏期の湛水管理

＜調査方法と結果＞

山形県・夏期湛水管理と同様

鳥類の調査結果

（2 回の調査結果の計）

	実施区	対照区
シラサギ類	1	0
カモ類	1	0
ツバメ	3	0

水生コウチュウ類の調査結果

	実施区
1 回目	15
2 回目	17
計	32

スコア：2
評価：S

⑦ 岩手県・メダカ等魚類を保護する管理



メダカ水路が設置された水田

メダカ水路で泳ぐクロメダカ

採捕したクロメダカ等

＜調査方法と結果＞

中干しのための落水時に排水出口にて、また、落水後にメダカを保護するためのメダカ水路にてそれぞれメダカの採捕調査を実施。

中干し時→ 予定調査日より早く中干しが行われたため、調査未実施

中干し後→ メダカ水路での調査により、159匹のクロメダカを採捕

⑧ 滋賀県・希少魚種等保全水田の設置



排水路から水田へつながる一筆型魚道

水田で泳ぐ魚類

採捕したニゴロブナ

＜調査方法と結果＞

保全対象種（ニゴロブナ）等について、遡上期に水田へ入る個体数と中干しのための落水時に排水路へ出ていく個体数をそれぞれ調査

調査結果（落水時）

	ほ場 A	ほ場 B	ほ場 C
ニゴロブナ	1,050	2,510	2,450
ナマズ	90	330	20

※遡上期の調査は1～2日間実施したが、魚類はほぼ確認されなかった。落水時には上の表に示したような結果が得られたことから、調査日以外に水田へ進入した個体が多かったものと考えられる。